

学校法人 兵庫医科大学

広報



兵庫医科大学



兵庫医療大学

2017年1月号
Vol. 237

特集1 平成29年 年頭の言葉

新たな年を迎えて

特集2

大学と卒業生との“絆”





武庫川河畔の「米百俵」

理事長 新家 莊平

明けましておめでとうございます。平成29年、酉年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

あの一茶の句に「めでたさも 中位なり おらが春」という少し醒めたような作品があります。本学でも新春を寿ぐ晴れやかな気分の中に、陰陽交々に彩られた昨年の行路を織り込むと、それに似た感慨が湧きますが、天上から俯瞰すれば、昨年は、例年と変わることなく着実に成長し、一本の太い年輪を刻むことができたように思います。医療機器の紛失事件、精神保健指定医の不正取得等の陰の部分の少しばかり話題になりましたが、それらを払拭するような新しい陽の風が次々に立ち上がってくれました。

まず、4月には、大学人としての卓越した能力に恵まれた野口光一学長が登場。学校教育法改正に伴って強化された学長統治体制を背にして、これまでの教学における優れた実績と、永年の法人理事としての大学管理経験を駆使して、本学の多方面にわたるイノベーションの流れに掉さしていただくことになりました。また、それに前後して、基礎系2部門と臨床系3部門に世代交代があり、全国各地から錚々たる実力派の主任教授を迎えることができました。

西宮の本院においても、難波光義病院長の名指揮の下、医療従事者の一人当たりの生産性が次第に向上、入院稼働率も目標値に近づいてきました。がん診療のPDCAの方策も明確になってきました。

ささやま医療センターも、病院長兼務の太城力良副理事長の名采配の下、時代の流れに沿った「地域包括ケアシステム」の構築に軸足を移しつつ、地域医療・介護・福祉の更なる充実と総合診療科の若手医師育成に力を注ぐとともに、近隣の医療機関との新しい連携によって、その機能の効率化が更に推

進されることになりました。人間ドックを中心とした健康医学クリニックも、開院2年目に入り、経営改善の目途もついて参りました。

また、今年開学10周年を迎える兵庫医療大学（神戸キャンパス）では、知将 馬場明道学長の旗振りのもと、これまでの順調な発展の弾みとなる記念行事が企画されています。

他方、環境整備方面でも、本年末に竣工予定の教育研究棟の建設は順調に推移し、その雄姿は日毎に大きくなっています。

そして、約10年後の新病院建設。その青写真が、愈々、俎上に乗って参りました。この事業は本学史上最大級のものであり、この完遂には巨額の原資の調達が必要であることは言うまでもありませんが、そのためには、今後少なくとも10年間は、本学の全知全能を集結し、全身全霊を投入して財政基礎を強固なものとしていかねばなりません。

現在、本学ではその長期事業計画のための嚆矢として、人件費と諸経費の削減を二大課題として取り上げ、すでにその一部は実践段階に移りつつありますが、同時に、長い歳月にわたって慣性化されてきた古い体制や固定観念をできるだけ早く変革していくことも、焦眉の急務だと思っています。

皆さんよくご存知の「米百俵」。幕末、戊辰戦争に敗れた長岡藩が財政窮乏の中ながら、隣藩からの援助で得た恵みの米を食用に供することなく他に売却し、その代金で将来の人材育成のための藩校を建てたという美談を、今一度、脳裡に想い起こしつつ、今年の酉年に因んで、自らが鴻鵠の翼を身に着けて山の彼方空遠くへと飛翔していくような初夢を、正夢にさせていただきたいと思っています。



平成29年新春にあたり

兵庫医科大学 学長 野口 光一

皆様、明けましておめでとうございます。平成29年が皆様にとりまして、そして兵庫医科大学にとって素晴らしい1年となることを祈っております。

平成28年4月に第10代学長に就任して9ヶ月が経ちましたが、大学運営に関する種々の業務をこなしながら、教育研究棟建設に関するすべての事項の判断・決定、兵庫医科大学に存在するあらゆる問題点の解決のための施策の策定・実行など、目の回るような状態でした。当分はこの状態で全力疾走していきます。

教育研究棟はついに今年11月に完成を迎えます。これまで貧弱であった学生用アメニティが格段に向上し、日本で一番新しく設備の整った美しい教育環境が整います。この数ヶ月、これらの学生教育スペースの構造、設備などすべての内容を吟味し予算内でいかに素晴らしい環境にするか、という課題に取り組んで参りました。学生達が快適

で安全に勉学に励むことができるように施設の充実が実現いたします。今年末より順次引越しを進められるよう現在検討中であり、平成30年春からは一部の施設を除いてフルオープンとなり、授業・実習を開始していく予定です。

日々の業務・仕事をこなしながらも決して忘れてはならないと肝に銘じているのは、未来へ向けての改革です。教育・研究・診療のすべての点において、本学はこの40数年の間に大きく進歩し、高い評価を得るようになって参りました。しかし、今後とも大学として向上していくためには財政面での裏付けと共に、すべてのシステム、ソフト面での時代に即した改革が必須です。長年にわたる慣習や風土を変えていく勇気や努力、そして何よりも兵庫医科大学を良くするという構成員全体の意思が必要です。精一杯努力して参りますので、是非ご協力をお願い申し上げます。



医療大—新たな10年のスタートに

兵庫医療大学 学長 馬場 明道

皆様、明けましておめでとうございます。

本年、本学は、新たな10年に向かってスタートします。平成19年の開学から10年、本学は順調に成長してきました。私が学長に就任して、現在4年目になります。これまで「医療総合大学としての基盤を確固たるものにすること」を最重要課題に掲げ、教職員が一体となり、その実現に向かって汗を流してきました。本学に集う学生たちの熱いエネルギーも大きな力であったことは言うまでもありません。

学生募集から、進級、国家試験、就職に至る各項目については、競合校がひしめく厳しい環境のなかでも、十分な成果を挙げています。ただし、薬学部については、国家試験の合格率が悪いという大きな課題を残しています。薬学の国家試験については、6年間の教育という視点から、包括的に考えていくことが必須であり、中長期的対策も実施しています。

2018年は、新たに受験人口が減少する厳しい環境を迎

えます。多くの大学が学部再編成などで、その荒波を乗り越えようとしています。では、医療大学はどのようにしてこの荒波に対応していくのか？ 本学は今年、新たな10年を見据えた「HUHS vision 20」を策定します。開学20年目で、西日本を代表する医療総合大学としての、教学及び経営基盤を確立することを目指すものです。その目標に向かって、これからの10年は、大学の方針の下に、各学部・研究科の主体的な教育研究を推進します。そのことにより、学部・研究科の目指すべき具体的なポジショニングを明確にし、それらを包括した形での「医療総合大学」としてのブランディングを確立いたします。

「大学には変えてはいけないうもの、変えなければならぬものがある」ことを共通認識に、全学一致で注力します。本年も、兵庫医療大学をご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



『Next Stage』への第一歩

兵庫医科大学病院 病院長 難波 光義

明けましておめでとうございます。

本院はこれまで、「良き医療人」を育成する大学病院、「患者目線」で先進医療を提供する特定機能病院、地域の方々から「信頼される」災害拠点病院あるいは地域中核病院として、そのプレゼンスを堅持してきました。さらに昨年は、病院機能評価新バージョンの承認と臨床検査部門のISO基準取得も達成することができました。

その一方で、再び個人情報保護規程に抵触する事案が起こったことは極めて遺憾であります。医療安全や研究倫理面の担保が声高に叫ばれる時代の中で、なおさら小職は病院長としてのガバナンスを強化し、個人情報の保護はもとより、医療事故・インシデントの抑止・予防に努めてまいります。

現在法人は「10年以内に新病院棟の竣工を!」という

目標を掲げ、そのプロジェクト達成のために財務基盤の確立を目指しています。法人全体の70%もの収入を担っている本院も「入りをはかり、出づるを制する」ため、まだまだ種々の改善策を講じていく必要があります。まず何よりも、疾患に立ち向かおうとされている一人でも多くの患者さんを新たに招き入れ、本院のハード・ソフト両面の強みを最大限に活用してもらう。このことがスタートと考えています。

これは決して『守り』のスタンスだけで達成できるものではなく、職員一人ひとりが果敢に『攻め』のスタンスで活躍しなければなりません。本院のスタッフが夢の実現に向けて、日々充実感を味わいながら職務に携わる大学病院へ。

西年の本年がその『Next Stage』への第一歩となるよう、全力で頑張りたいと思います。



大学が行う地域包括ケアに向けて

副理事長 ささやま医療センター病院長 太城 力良

新年明けましておめでとうございます。

篠山キャンパスで3回目の新年を迎えました。医科大学では稀有の地域包括ケアシステムに合致する医療を実現し教育研修の場とすること、プライマリーケア体制を整備し西宮本院との連携を深めて急性期医療を整備することに努めてきました。少なくなりましたが、まだまだ赤字ですし、将来構想の枠組みはできましたがその肉付けは今からです。重篤な疾病は西宮本院へ搬送し、安定すればささやまの地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病棟で経過観察し、併設の老人保健施設、リハビリテーションセンターと、昨年に発足させた居宅サービスセンターを介して包括ケアを行います。居宅サービスセンターには、居宅介護支援事業所に加えて、訪問看護ステーション「デカンショ」、訪問介護ステーション「デカンショ」、定期巡回・随時対応型介護・

看護事業所があり、近隣の福祉施設との協力体制を整備します。

ささやま医療センターは医学生や臨床研修医、さらに他のメディカルスタッフの研修を行う上で大きな役割を担っています。西宮本院では病を治し、命を救う高度急性期医療を中心に行っていますが、当医療センターは、将来の家庭医や総合医、訪問看護・リハビリに必要なスキルを学ぶ機会が十分にあり、患者に寄り添い、支え、癒し、看取るという医療も合わせて学ぶことやプライマリーケアを行う能力を培う場です。

地域に貢献し、地域に信頼される医療センターを目指すには、安定した経営基盤が必須です。教職員一同、従来に増して努力いたしますので、学校法人の構成員や関係者のご協力、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

学校法人 兵庫医科大学

広報

vol.237/2017年1月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX 目次

特集1 …1

平成29年 年頭の言葉

特集2 …5

大学と卒業生との“絆”

I Campus News …8

- ・6年次 野口さんの研究論文が国際学術雑誌に掲載
- ・「平成28年度篤志解剖体納骨式」を執行
- ・教職員対象「ママさんパパさん交流会」を開催
- ・患者さんからのご寄付により「3D画像解析システム」を導入
- ・「2016年度アデレード大学留学報告会」を実施
- ・ビュルツブルク大学 医学部と学術交流協定を締結
- ・兵庫医療大学のブランドイメージが飛躍的に向上
- ・宝塚で「第2回市民健康フォーラム」を開催
- ・「個人情報保護に関する講演会」を開催
- ・独自手法により染色体3p21領域で複数の非連続欠損を発見
- ・患者さんの利便性向上のため「病院の診療体制や設備」を大きく変更
- ・研究医育成への議論を深める「研究医コース キックオフミーティング」を開催
- ・兵庫医科大学後援会 秋季教員・保護者懇談会を開催
- ・兵庫医療大学「第10回 保護者懇談会」を開催
- ・精神保健指定医の行政処分について
- ・老健施設の省エネで「BELS 5つ星」を取得
- ・薬学部生が「さんなん和田漢方の里まつり」に参加
- ・受験生を対象に「入試対策講座」「薬学部特別入試対策講座」を開催

I The Professional ザ・プロフェッショナル …14

プレバラートの先の患者さんを診る ～認定病理検査技師として～
兵庫医科大学病院 臨床検査技術部 次長 鳥居良貴

I 卒業生の今 …15

病院薬剤師として調剤や業務改善などに取り組む
於保 麻里菜さん(平成27年3月卒業)

I 気になる授業 …17

兵庫医科大学「臨床入門(傾聴トレーニング)」／兵庫医療大学「母性看護援助論」

I チームの力 …18

～より働きやすく、より合理的に～ 多職種連携のイノベーション活動チーム

I 知ってる?兵庫医科大学 …18

著名な科学者を招いての講演会「レクチャーシップ 知の創造」とは?

I 大学祭・学生の課外活動紹介 …19

I 表彰および受賞紹介 …21

I 就任挨拶／お知らせ …23

I 兵医・萌えの会 状況報告／新教育研究棟建設事業募金 状況報告 …24

I 主な行事予定(2～4月) …25



特集2 大学と卒業生との“絆”

大学で勉学に励む学生は、いつか必ず「卒業」の時を迎えます。しかしそれは、大学との別れを意味するものではありません。本特集では、兵庫医科大学や兵庫医療大学を卒業した学生が、その後どのように母校とつながっているか、大学と卒業生、両者の“絆”について紹介します。

卒業しても仲間同士が交流できるように同窓会組織が活動中

昭和47年4月に開学した兵庫医科大学。当時入学した第1期生が6年次になった昭和53年3月、初めての卒業式が挙行され、翌年の10月、兵庫医科大学の同窓会組織として「緑樹会」が発足しました。会員総数は3,916人(平成28年7月時点)、現在では全国各地に支部を構え、発足40周年を前に、卒業生同士の情報交換や会合の場を提供するなど様々な活動を行っています。

一方、兵庫医科大学の兄弟校として、平成19年4月に開学した兵庫医療大学。兵庫医科大学と比べるとまだ大学としての歴史は浅いですが、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部(理学療法学科・作業療法学科)で学んだ学生が、学部の壁を越えて卒業後もその絆を大切にできるように、平成26年10月、兵庫医療大学の同窓会組織として「海泉会」が発足しました。現在の会員総数は1,694人(平成28年4月時点)で、年に1回「同窓会懇親会」を開催するなどの活動を行っています。



兵庫医科大学 同窓会「緑樹会」

設立：昭和54年10月
会員数：3,916人(平成28年7月時点)
会長：石蔵 礼一(第5期卒業生)



兵庫医療大学 同窓会「海泉会」

設立：平成26年10月
会員数：1,694人(平成28年4月時点)
会長：澤田 友宏(薬学部 第1期卒業生)

先輩である卒業生を母校に招待する「ホームカミングデイ」を開催

現在、社会に羽ばたいて活躍している卒業生の皆さんは、大学や学生にとって目標となる存在であるとともに、先輩として意見やエールをくださる心強いサポーターでもあります。そんな大切な存在である同窓生との絆をより深いものにするため、兵庫医科大学と兵庫医療大学が実施している代表的な取り組みが、卒業生を懐かしい母校に招待して現職の教職員などとの交流を図る「ホームカミングデイ」です。

兵庫医療大学では、大学祭の開催初日にあたる平成28年10月9日に、P棟シーサイドレストラン2階にて「ホームカミングデイ」を開催。約1時間と短い間ではありましたが、卒業生と現職の教職員合わせて71人が参加し、互いに交流を深めました。



兵庫医療大学「ホームカミングデイ」の様様



計85人の卒業生・教職員が出席した懇親会(同窓会主催)

また、兵庫医科大学も同様に、大学祭の最終日となる平成28年11月20日、3号館 3-3講義室にて「平成28年度 兵庫医科大学ホームカミングデイ」を開催しました。

平成26年8月に第1回を開催してから3回目とまだ歴史は浅いですが、今回は、卒業生が少しでも楽しめるように少し趣向を変え、まずは、現在の兵庫医科大学の取り組みを同窓生に知っていただくため、主任教授2人による「特別講演」を実施。昨年4月に外科学 上部消化管外科の主任教授として着任した篠原 尚主任教授と、卒業後から現在に至るまで終始兵庫医科大学のために尽力してきた炎症性腸疾患 外科部門の池内 浩基主任教授が、それぞれのテーマについて講演を行いました。

また、後半には山村 武平名誉教授と池内主任教授の「対談」をはじめ、複数の卒業生に学生時代を振り返ってもらいながら楽しくトークしてもらう「座談会」を実施。司会の大江 与喜子先生と「御子息も兵庫医科大学生」という共通点を持つ4人の座談会では、それぞれが自身の学生時代を振り返りつつ、御子息の学生生活に対する感想を述べるなど、「先輩」と「保護者」という両方の立場から、兵庫医科大学の今と昔を比べた魅力を語ってもらいました(※内容は7p参照)。

その後は、急性医療総合センターや、現在建設中の教育研究棟の施設見学(5号館屋上からの見学)を行い、10号館10階レストラン「リビエール」で懇親会を開催しました。



「平成28年度 兵庫医科大学 ホームカミングデイ」の様様



建設中の教育研究棟の工事現場を5号館の屋上から見学



懐かしい旧友との再会を喜ぶ卒業生の皆さん



懇親会会場には森村先生に関するパネル展示も

「平成28年度 兵庫医科大学 ホームカミングデイ」プログラム

開 式

講演① 「次世代の外科医を目指すもの」
(外科学 上部消化管外科 篠原 尚 主任教授)

講演② 「兵庫医科大学と炎症性腸疾患」
(炎症性腸疾患 外科部門 池内 浩基 主任教授)

対 談 山村 武平名誉教授
炎症性腸疾患 外科部門 池内 浩基 主任教授

座談会 大江 与喜子(第1期生)、谷口 賢三(第2期生)、
夏秋 恵(第10期生)、清水 聡一郎(第13期生)、
岡田 昌也(第13期生)

施設見学 急性医療総合センター、教育研究棟建設現場

懇親会 10号館10階レストラン「リビエール」
アーカイブパネル展示

閉 式

卒業生5人による座談会の内容（一部抜粋）

（大江） 今の兵庫医大は試験が多く、部活動の時間が少ないと言われていますが、昔はどうでしたか？

（清水） 私はテニス部でした。昔は授業をサボって部活をやっていた記憶がありますが、試験勉強はしっかりとやっていましたよ。今の学生は勉強をさせられている感じがします。

（岡田） そうですね。手取り足取りやってもらっている感じがします。大学として「落ちこぼさない」「きちんと医者にする」といった教育の情熱を感じますね。

（大江） 今は、きちんと教育しているから国家試験の結果も上がっているのでしょうか。

（夏秋） 今の兵庫医科大学には「医学教育センター」という素晴らしい部門があり、そこには卒業生の先生も配置されています。つまり前に手助けしてくれますし、「大学に入ったからには医者にしてあげたい」という熱意を感じますね。「我が子のためにこんなにやっていただいているのかな」というところまでサポートしてくださっています。ただし、環境が整っても学生の意識が変わらないと成長しませんので、学生一人ひとりの意識が大切ですね。

（谷口） 本学の学生は仲が良いですね。仲間を作って、一緒に勉強しよう、進級しようとする意識が強い印象があります。国家試験の結果が良いのは、そういった団結力が強いからではないでしょうか？

（大江） たしかに、そうした団結力は一期生の頃からありましたね。「みんなで一緒に卒業しよう」という思いで、互いに教え合ったり、ノートを見せ合ったりしていました。卒業生が教員であることは、今の学生にとって目標になるのでしょうか？ もっと私たち同窓生が先輩としての姿を見せてあげれば良い目標になるかもしれませんね。

（敬称略）



これからも卒業生の皆さんと一緒に “チーム”となって大学の発展をめざす

ホームカミングデイの他にも、例えば兵庫医療大学では「卒業生のためのコミュニティサイト」（※下写真）や「兵庫医療大学 Facebook ページ」などを通じて、大学のイベント開催情報などを定期的に卒業生へお知らせしています。また、卒業生に対する生涯教育の一環として、兵庫医療大学で開講する授業科目について事前に聴講の申し込みを行うことで、卒業生が「特別聴講生」として無料で聴講できる制度もあります。

卒業生はそうした大学側の気持ちに応えるように、理学療法学科主催の「勉強会」に参加したり、キャリア形成支援のための「仕事研究セミナー」や、就職支援のための「兵庫医科大学病院・ささやま医療センター就職説明会」で医療職に関する説明を行ったりと、後輩にあたる学生のために、社会人の先輩だからこそできるサポートを行ってくれています。

昨今、大学を取り巻く環境は大きく変化していますが、兵庫医科大学と兵庫医療大学は卒業生との“絆”をいつまでも大切に、先輩と後輩が“チーム”となってさらなる発展をめざせるように取り組んでいきます。



兵庫医科大学「緑樹会」のページ

http://www.hyo-med.ac.jp/guide/alumni_association.html



兵庫医療大学「卒業生コミュニティサイト」

<https://www.alumnet.jp/huhs/>

Campus News



～現役医学部生の快挙～

6年次 野口さんの研究論文が国際学術雑誌に掲載

医学部6年次の野口 知洋さんが筆頭著者として執筆した英語論文が、国際的な学術雑誌「Drug Safety」に掲載されました。

野口さんは、先輩が学生時代に論文を執筆したことを聞いて興味を持ち、臨床推論の勉強会を主宰していた臨床疫学の森本教授の門戸を叩き、5年次から6年次の自由選択実習にかけて研究を行いました。

研究テーマは、森本教授が以前より行っている「薬剤性有害事象と薬剤関連エラーの臨床疫学」。聖路加国際病院、洛和会音羽病院、飯塚病院で実施したコホート研究のデータを基に、薬剤関連エラーにつ



データ解析を行う野口さん(左)と森本教授(右)

いて統計解析を行いました。その結果、薬剤関連エラーが発生しやすい状況や、どうすれば阻止可能であるかを明らかにしました。

野口さんより

統計手法を覚えたり、データにミスが無いよう幾度も確認を重ねることは容易ではありませんでしたが、先生方が丁寧に教えてくださり乗り越えられました。また、学生の論文に掲載していただいたことはとてもありがたいと思っています。この事を知って、後輩が後に続いてくれたら嬉しいです。



指導教員 森本教授より

日常診療の質は普段あまり測定されることがありませんが、医療現場をより安全にしたいという思いで長年本研究に携わっています。今回は野口さんに一部分を解析してもらいましたが、今後も別の観点に着目して研究を継続することで、研修医や若い医師の能力向上に貢献したいと考えます。



掲載誌：「Drug Safety」2016 Nov;39(11):1129-1137

論文タイトル：「Prevention of Medication Errors in Hospitalized Patients: The Japan Adverse Drug Events Study」

著者：野口知洋(医学部6年次)、作間未織(英語学 講師)、太田好紀(内科学 総合診療科 講師)、David W. Bates(ハーバード大学医学部 教授)、森本剛(臨床疫学 教授)
* Bates教授以外は兵庫医科大学所属

※本件に関する詳細は、大学ホームページをご覧ください。

(<http://www.hyo-med.ac.jp/news/20170112-02.html>)



「平成28年度 篤志解剖体納骨式」を執行

平成28年10月1日、神戸市東灘区の住吉霊園にて、「平成28年度篤志解剖体納骨式」を執り行いました。当日は、解剖学講座の教員をはじめ教職員18人が参列し、兵庫医科大学篤志解剖体慰霊碑の前で、故人の冥福をお祈りいたしました。



～育児をしながら働き続けるために～ 教職員対象「ママさんパパさん交流会」を開催

看護部と男女共同参画係が共催する初めての試みとして、平成28年11月19日に妊娠・育児中の全教職員を対象とした「ママさんパパさん交流会」を開催しました。この交流会は本法人の医師、看護師、医療技術職員、事務員からなるワーキンググループで企画したものです。今回は36人の教職員が集い、育児についての悩みや情報を共有。また、キッズスペースや授乳室を設けたことで教職員の子どもも参加できる会となり、終始和やかで楽しい雰囲気で行われました。開催後のアンケートでは、「他職種のパパ・ママの話も聞けて良かった」「また参加したい」といった声が聞かれました。



■10/1(土)

平成28年度学校法人兵庫医科大学医療人育成センター認定看護師教育課程(手術看護分野)の入学式を執り行いました。



■10/13(木)

来院案内やイベント企画などのボランティア活動を行う地域医療支援グループ「ささゆり」に、太城病院長から感謝状を贈りました。





患者さんからのご寄付により「3D画像解析システム」を導入

平成28年10月中旬より、呼吸器外科に「3D画像解析システム」を導入しました。これは、手術を行う前にシミュレーションを行うためのシステムです。

このシステムでは、二次元(2D)のCT画像を読み込むと、気管支・肺動脈・肺静脈が自動で3D化されます。気管支やリンパ節など、これまでは平面で分かりづかった形状も、鮮明に可視化、および立体化されるため、より安全に手術を行うことが可能になりました。また、腫瘍のある場所を特定することで気管支鏡検査のナビゲーションが可能となり、一層診断精度が向上することが期待されます。

なお、本システムは当院の呼吸器外科にて手術を行った患者さんからご寄付いただいた研究費にて購入しました。ご寄付いただいた患者さんに、心より感謝申し上げます。



システムを用いて手術のシミュレーション

(左)呼吸器外科 長谷川 誠紀 主任教授
(右)橋本 昌樹 助教



「2016年度アデレード大学留学報告会」を実施

平成28年10月19日に「2016年度(第3回)アデレード大学看護学部学術交流留学プログラム報告会」を実施しました。

留学した看護学部の学生は「演習のロールプレイングで、患者役を熱演した先生が、患者の立場として看護師役の学生の処置や対応にどう感じたのかをフィードバックしてくれ、勉強になった」「疑問や意見があれば、すぐに先生に伝えて議論が始まったことに驚いた」と話すなど、日本とは異なる学習スタイルを体験したことを報告しました。また、「将来外国人の患者さんを担当することになってもスムーズに対応できるようになりたい」と今後の抱負を述べた学生もいました。

今年2月にはアデレード大学看護学部の学生が本学へ留学生として訪れ、約3週間のプログラムで学習や交流を行う予定です。



参加した看護学部生と教職員



兵庫医療大学M203講義室で実施



～1402年創立のドイツ名門大学～ ビュルツブルク大学 医学部と学術交流協定を締結

平成28年10月25日、兵庫医科大学は、1402年に創立したドイツの名門ユリウス・マクシミリアン大学・ビュルツブルク(通称:ビュルツブルク大学)の医学部と新たに学術交流協定を締結しました。この協定により、今後は両大学の学生や研究者が相互留学などで交流を深め、関係を構築していきます。今後、希望する学生を募り、今春にも約1カ月の臨床実習留学を行う予定です。

なお、兵庫医科大学が交流協定を締結した海外の大学は、リエカ大学(クロアチア)、ソフィア医科大学(ブルガリア)などに加え、7校目となります。



野口学長(左)とフロッシュ医学部学長(右)



ドイツの中部にあるビュルツブルク大学

■10/14(金)

ポーアイ4大学の学生や教職員などを対象とした総合防災訓練が行われました。また、12/1には兵庫医療大学の消防訓練を実施しました。



■10/18(火)

「平成28年度兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭」を挙行し、ご遺族の方々をはじめ、学生や教職員など約400人が参列しました。



兵庫医療大学のブランドイメージが飛躍的に向上 ～開学10年目を迎えた成果～

リクルート進学総研が実施した「進学ブランド力調査2016*」の高校3年生を対象とした大学ブランドランキング(関西地区)において、兵庫医療大学が「教育方針・カリキュラムが魅力的である」の部門で12位となり、昨年の90位から飛躍的にランクアップしました。右表のとおり、上位の歴史ある大規模校に続く高順位です。このほかの項目でも上位にランクインしました。

今回の結果をこの10年の成果と捉えとともに、教育内容の質向上に、より一層取り組んでいきます。

*リクルート進学総研「進学ブランド力調査2016」
【調査対象】関西2府4県の高校3年生(2017年3月卒業予定者)
(収容定員1,000名以上の大学が対象)
【調査期間】2016年4月6日(水)～4月28日(木)

■教育方針・カリキュラムが魅力的である

順位	全体	区分	(%)	順位	男子	区分	(%)	順位	女子	区分	(%)
1(1)	京都大学	国	11.8	1(2)	京都大学	国	14.6	1(7)	大阪大学	国	11.9
2(2)	大阪大学	国	11.1	2(27)	同志社大学	私	14.4	2(2)	神戸大学	国	9.8
3(15)	同志社大学	私	9.7	3(3)	東京大学	国	11.1	3(1)	京都大学	国	8.5
4(14)	関西学院大学	私	9.0	3(7)	早稲田大学	私	11.1	4(11)	関西学院大学	私	8.3
5(3)	神戸大学	国	7.3	5(1)	大阪大学	国	10.4	5(35)	同志社女子大学	私	7.4
6(11)	慶應義塾大学	私	6.5	6(9)	慶應義塾大学	私	10.1	6(9)	大阪市立大学	公	7.3
6(3)	東京大学	国	6.5	7(13)	関西学院大学	私	9.7	7(18)	お茶の水女子大学	国	6.2
8(7)	大阪市立大学	公	6.4	8(5)	立命館大学	私	7.0	7(53)	筑波大学	国	6.2
9(10)	立命館大学	私	5.6	9(10)	大阪教育大学	国	6.3	7(21)	明治大学	私	6.2
10(9)	早稲田大学	私	5.5	10(156)	追手門学院大学	私	5.6	10(4)	関西大学	私	6.0
11(72)	同志社女子大学	私	5.4	10(7)	大阪市立大学	公	5.6	11(8)	同志社大学	私	5.0
12(90)	兵庫医療大学	私	4.7	10(11)	埼玉大学	国	5.6	11(33)	兵庫医療大学	私	5.0
13(13)	大阪教育大学	国	4.2	13(4)	神戸大学	国	5.2	11(15)	和歌山大学	国	5.0
14(8)	関西外国語大学	私	4.0	14(55)	龍谷大学	私	5.1	14(12)	大阪医科大学	私	4.5
14(5)	関西大学	私	4.0	15(18)	関西外国語大学	私	5.0	15(44)	京都橋大学	私	4.1
14(20)	京都工芸繊維大学	国	4.0					15(6)	近畿大学	私	4.1
14(32)	龍谷大学	私	4.0								

()内数字は昨年度の順位

出典:リクルート進学総研「カレッジマネジメント Vol.200 Sep.-Oct.2016」



宝塚で「第2回市民健康フォーラム」を開催

地域住民の皆さんが病気について正しく学び、予防や健康の維持に役立てられるように、平成28年10月15日、宝塚市立文化施設ソリオホールにて「第2回 兵庫医科大学病院 市民健康フォーラム」を開催しました。

今回のテーマは「消化器がんの最新治療 ～からだに優しいがん治療～」。世間的にも関心度の高いテーマということもあり、当日は宝塚市在住の皆さんを中心に、185人もの方が聴講に訪れました。

消化管内科や肝・胆・脾外科、放射線科の医師が行った講演内容について、終了後に行ったアンケートでは、すべての来場者が「とてもわかりやすかった」または「わかりやすかった」と回答。また、来場者の90%が「満足している」と回答するなど大変好評でした。こうした声を受け、兵庫医科大学病院では地域住民の皆さんのお役に立てるよう、今後も「市民健康フォーラム」を開催する予定です。



二度と問題を発生させないために 「個人情報保護に関する講演会」を開催

平成28年10月31日、外部講師を招いて「個人情報保護に関する講演会」を開催しました。この講演会は、平成27年9月に患者さんの個人情報が記録されたUSBメモリを紛失する問題が発生して以降、全教職員を対象に開催しているものです。

平成28年10月に再び患者さんの個人情報記録された血糖測定器を紛失する問題が発生したことを踏まえ、当日の講演では具体的な注意点などについて話があり、病院職員をはじめとした教職員は皆、真剣な表情で聴講しました。

本法人では二度と同様の問題を発生させないよう、今後も個人情報の保護に全力で取り組んでいきます。



満席になった講演会の模様



真剣な表情で聴講する病院職員

■10/22(土)-23(日)

兵庫医科大学医学教育センターは岐阜大学(MEDC)と「第62回医学教育セミナーとワークショップin兵庫医大」を共催しました。



■10/28(金)

病院FD講演会を開催し、近畿厚生局の担当者に「地域包括ケアの概要と取り組み」、「臨床研修医制度における地域医療」についてご講演いただきました。





～遺伝学 吉川助教が悪性中皮腫のゲノムに関して研究発表～ 独自手法により染色体3p21領域で複数の非連続欠損を発見

遺伝学 吉川 良恵助教の研究グループは、アスベストが主たる要因で発症する悪性中皮腫の染色体3p21領域(図1)に、複数の非連続した欠損があることを明らかにし、米国アカデミー紀要(Proceedings of the National Academy of Sciences)2016年11月10日電子版に論文が掲載されました。

近年、遺伝子変異は10塩基以下の変異を見ることを得意とする次世代シーケンサーを用いて解析することが主流であり、それを用いたデータからは、悪性中皮腫による遺伝子変異は他のがん比べて少ないとされてきました。

しかし、悪性中皮腫の画期的な治療法が見つからないことなどから、30～3000塩基の配列変化を見つけるために独自で高解像度アレイCGHを設計し、染色体1本が欠損しやすいことが先行研究により判明していた染色体3p21領域を詳細に解析しました。

その結果、特定領域の染色体が1本のみならず2本ともが欠損し、激しいゲノム再構成が生じていることが判明(図2)し、悪性中皮腫の遺伝子変異が過小評価さ

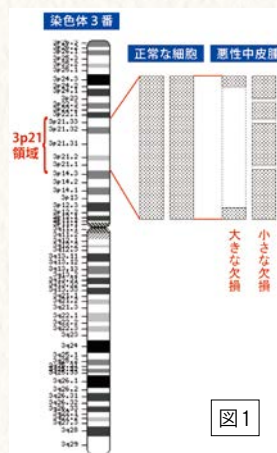


図1

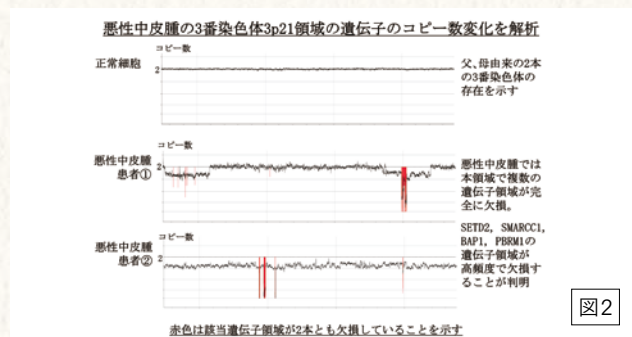


図2

れていたことが明らかになりました。また、米・ニューヨーク大学心胸郭外科から提供のあった検体も解析し、同様の結果が出たため、当該ゲノム変化は人種によらない普遍的な変化であることも示されました。今回は3p21領域に特化して解析しましたが、抗がん剤は特定の遺伝子分子を標的としてがん細胞を攻撃する薬であるため、悪性中皮腫の新たな治療法の開発につながるよう、他の領域についても今後調査する予定です。

※本研究に関する詳細は、大学ホームページをご覧ください。
<http://www.hyo-med.ac.jp/news/20161228-01.html>



研究医育成への議論を深める 「研究医コース キックオフミーティング」を開催

平成28年10月13日、今年度から研究医コースが実始動したことを記念して、“医学生における研究活動”をテーマに、兵庫医科大学 国際シンポジウム「研究医コース キックオフミーティング」を開催しました。

鈴木副学長による本学の研究医コース紹介から始まり、米・ハーバード大学Carol Bates准教授による基調講演、順天堂大学 横溝 岳彦教授、大阪大学 仲野 徹教授およびハーバード大学David Bates教授の講演が行われました。

また、研究医コースに所属している4年次の熊本 友子さんが、研究医コースに参加した理由や現在の1日のスケジュール例について英語で発表したほか、6年次の野口 知洋さんも英語で論文を執筆した経験について発表。質疑応答でも英語が飛び交い、国際交流を実感できる会となりました。

【開催テーマ】
「医学生における研究活動～研究室配属から臨床実習にかけて」
Research Activities in Medical Students - From Laboratory Rotation to Clinical Clerkship

【当日の様子】



講演者で総合討論



C.Bates准教授による基調講演



在学生2人も英語で発表



D.Bates教授の熱弁



研究医コースの学生も講演者に質問

【プログラム】

	Subject	Speaker
ご挨拶	-	難波光義 病院長
はじめに	Physician-scientist program in Hyogo College of Medicine (兵庫医科大学 研究医コース紹介)	鈴木 敬一郎 副学長(兵庫医科大学)
基調講演	Medical Student Research at Harvard Medical School	Carol K. Bates教授(Harvard大学医学部教授、Beth Israel Deaconess 病院総合診療科)
シンポジウム	教員講演	Juntendo University School of Medicine Research MD training system Introduction and Problems (順天堂大学基礎研究医養成プログラムの取り組みとその問題点)
	教員講演	What should we want medical students? (我々は医学生に何を望むべきか)
	学生報告	To belong to research student program
	学生報告	Experience of writing English paper
	教員講演	Research Activities in Medical Education
総合討論	研究医コースに関する意見交換	講演者全員
おわりに	-	鈴木 敬一郎 副学長(兵庫医科大学)、森本 剛 教授(兵庫医科大学 臨床疫学)



患者さんの利便性向上のため「病院の診療体制や設備」を大きく変更

診療体制変更 月曜から金曜に外来患者さんが来院できる日を増やして地域医療に貢献するべく、これまで休診としていた創立記念日と祝日(敬老の日、成人の日)を、平成28年10月1日より開院日に変更しました。それに伴い、第5土曜日は休診としています。

平成28年9月30日までの休診日
・日曜日
・すべての祝日
・第2・4土曜日
・年末年始(12月29日～1月3日)
・創立記念日

平成28年10月1日からの休診日
・日曜日
・祝日(「敬老の日」「成人の日」を除く)
・第2・4・5土曜日
・年末年始(12月29日～1月3日)
「成人の日」「敬老の日」「創立記念日(11月22日)」は開院日になりました

設備変更 患者さんの混雑緩和や診療の特性を考慮し、平成28年10月から平成29年1月で次の通り変更しました。

変更部署	変更点
眼科	混雑緩和のために外来の診察室を5室から7室に増室
生殖医療センター	「不妊に悩んでいる方」が「お腹の大きな妊婦さん」に院内で出会う機会を少なくし、不安な気持ちを軽減するために、これまで産科婦人科と同じ場所に合った「生殖医療センター」の外来を異なる場所に設置
看護外来	各診療科で行っていた「看護師による専門的なケア」を同じ場所で提供するために、看護外来を設置

変更部署	変更点
IBDセンター、ストーマ外来	混雑緩和のために外来の場所を変えて診察室を増室
乳腺・内分泌外科	混雑緩和のために外来の場所を変えて診察室を増室
入院受付、入院支援センター、医療社会福祉部	入院や診療など、患者さんの相談窓口を統一するために同じ場所に設置

今後も、患者さんに信頼される病院を目指して体制を整えていきます。



兵庫医科大学後援会 秋季教員・保護者懇談会を開催

平成28年11月19日、3-3講義室にて兵庫医科大学後援会 秋季教員・保護者懇談会を開催しました。懇談会では野口学長の挨拶に引き続き、辻村教務部長が「医学教育と医師国家試験の動向」と題した講演を行いました。



兵庫医療大学「第10回 保護者懇談会」を開催

平成28年10月1日、在学生の保護者を対象とした保護者懇談会を開催し、約450人の保護者が出席しました。担当教員が大学の現況や教育状況等の報告を行った後、保護者と各学部教員が懇親会で交流しました。



精神保健指定医の行政処分について

平成28年10月26日、厚生労働省から精神保健指定医の行政処分が発表され、処分対象者の中に、過去に兵庫医科大学病院で勤務していた医師が含まれていることが判明しました。

今回処分を受けた医師は、平成21年6月から平成22年4月までの期間に全員退職しており、現在勤務している医師ではありませんが、過去に不適切な行為が発生していた事実が判明したことを真摯に受け止め、同様の行為が二度と発生しないよう、改めて管理体制を強化していきます。

■11/2(水)

平成28年度男女共同参画推進特別講演会にて、大阪教育大学の小崎 恭弘准教授に「男性の家庭参画」をテーマに講演いただきました。



■11/19(土)

近隣施設の介護士やヘルパーなどを対象に、ケーススタディを中心とした、起居動作や移乗動作の実技を伴う研修会を実施しました。



■11/25(金)-26(土)

卒後臨床研修センター・臨床研究支援センター共催の「臨床研究ワークショップ」で、医師などが研究計画と統計についてグループワークで学びました。



■11/29(火)

学術協定校である中国・汕頭大学医学院より秦副院長、程教授が表敬訪問され、理事長・学長会談および院内見学を行いました。

